

# 国立歴史民俗博物館について

## — 「歴博」の概要 —



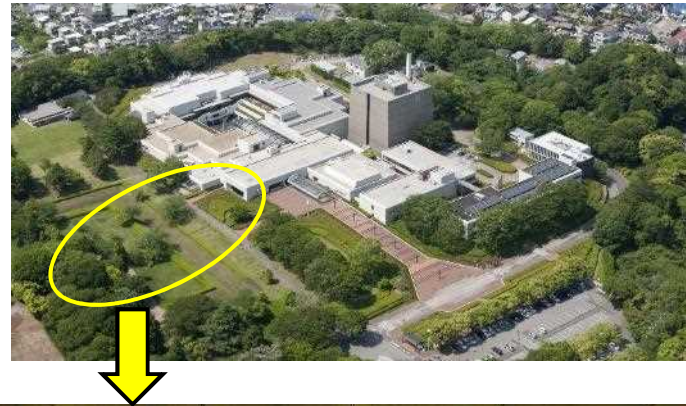
国立歴史民俗博物館  
総務課

# 歴博について

【参照】「要覧」6頁

歴博は千葉県佐倉市に所在。佐倉城址の一角、佐倉城址公園と接した

場所に設置。



# 歴博について

【参照】「要覧」6頁

歴博は、

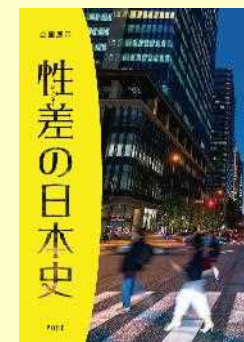
- 先史・古代から現代を総合展示する唯一の**国立の歴史民俗系博物館**。
- 国内外の大学などの研究者と共同で、  
歴史学・考古学・民俗学を  
はじめとする隣接諸科学との学際的、  
国際的な研究を進める**大学共同利用機関**。
- 総合研究大学院大学の文化科学研究科  
日本歴史研究専攻博士後期課程を担当。



研究者による調査風景



共同利用に供する分析装置



図録



展示風景

# 歴博のめざすもの

【参照】「要覧」1頁



- 「博物館型研究統合」のコンセプト
  - \*資源・研究・展示を相互に「つなげる」
  - \*公開・共有によってその環を「ひろげる」
  - \*活動の内容や成果をわかりやすく社会に「つたえる」
  - \*過去・現在・未来を貫く、認め合える視点を「みつける」
- 国内外の研究者を組織したプロジェクトで共同研究を展開するのが、歴博の研究面における一つの特長。その成果は論文だけでなく、展示という形で表現される。

【参照】「要覧」13～16頁

# 歴博の特長 ①収蔵資料

【参照】「要覧」29頁



青森県亀ヶ岡遺跡出土  
土器（実物）



紙本著色醍醐花見図  
屏風（重要文化財）



江戸橋広小路界限  
（復元模型）

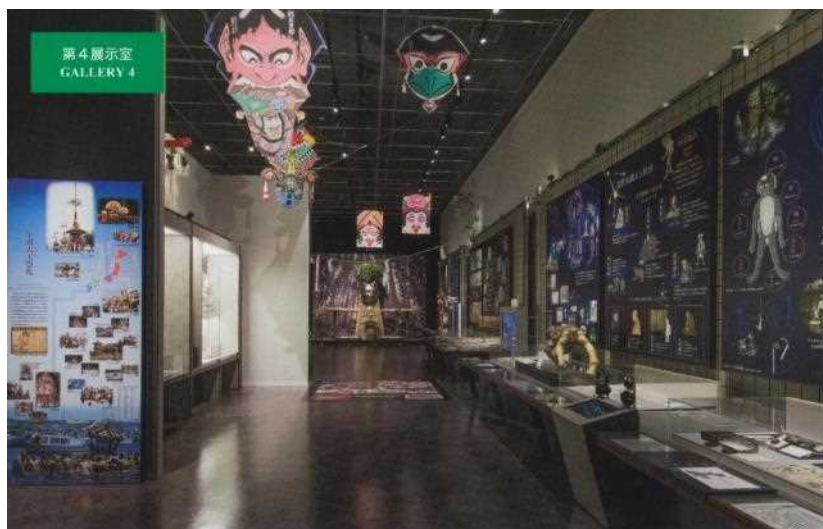
○収集資料の中には、実物資料だけでなく、レプリカや模写、研究成果に基づく復元模型など、多様な種類が含まれる。

【参考】総合誌「REKIHAKU」002



# 歴博の特長 ②展示

【参照】「要覧」18～27頁

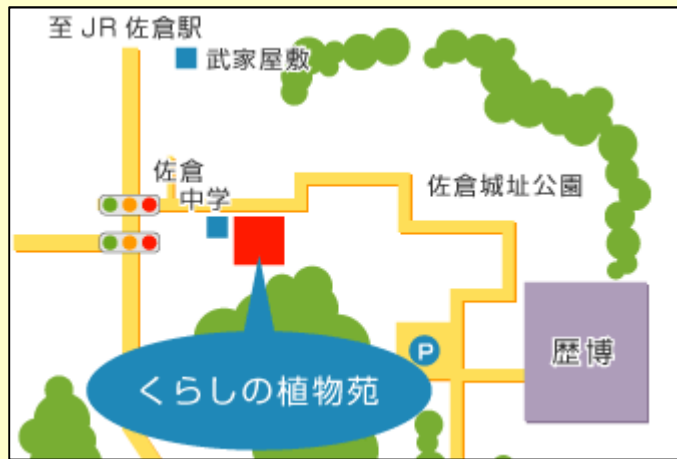


## ○展示の構成

- \* 第1展示室（先史・古代）
- \* 第2展示室（中世）
- \* 第3展示室（近世）
- \* 第4展示室（民俗）
- \* 第5展示室（近代）
- \* 第6展示室（現代）
- \* 暮らしの植物苑

## ○展示における基本的考え方

- \* 民衆の生活史を重視する
- \* 概説的展示、教科書的展示ではない課題的歴史展示
- \* 地域でつくられ、地域で使われ、地域で残されてきたものを、地域から引き離さない 等



## ○くらしの植物苑

\*生活文化を支えてきた植物を系統的に植栽

\*四季を彩る伝統花卉の展示 等



春：桜草



夏：朝顔



秋：古典菊



冬：サザンカ

# 歴博の特長

## ③多様な展示技術の積極的な導入



ジャスチャーセンサーを用いた  
情報端末による非接触型めくり式  
「さわらずめくり」

【参照】「要覧」31～33頁



「移動型展示ユニット」を活用した展示風景



博物館の魅力を発信する「オンライン体験ツアー」の様子



ご静聴ありがとうございました。

歴博では、「学芸員の資格をもって博物館活動の一翼を担う人材」と同等以上に、「複合的に担える人材」、「積極性と成長力、創造性に溢れる人材」を職員像として求めています。

特別展示「光る江戸図で感じる日本」 @成田国際空港



歴博が所蔵する江戸図屏風の高精細画像をもとに、ファブリック素材を使った内照式の「光る江戸図」を製作